

安部龍太郎

さん

直木賞作家

前葉泰幸

津市長

高虎公のまちづくり 人づくり

平成28年11月5日、「第9回高虎サミットin津」にパネリストとしてご登壇いただいた直木賞作家の安部龍太郎さんをお迎えし、初代津藩主・藤堂高虎公のまちづくり、人づくりについて前葉泰幸市長がお話を伺いました。

撮影場所/津センターパレス

市長 高虎公の生涯を書きつづった小説、安部龍太郎先生の「下天を謀る」が新聞紙上に連載されたのが平成20年でした。その時に行った講演会にご登壇をいただき、さらに前回の第5回高虎サミットin津にもご参加いただきました。高虎公を語っていただくのは安部先生をおいて他にいないということで、今回も大変お忙しい中、駆け付けてくださいました。まずは津市の印象をお聞かせ願えますか。

安部 「下天を謀る」を執筆する際、最初に津に取材に来ました。うなぎが大変おいしかったのをよく覚えています。それから津城に行き、堀を広くとった海城を実際に見て本当にすごい城だと感じました。この城がなぜつくられたのか。大坂の陣(江戸時代初期の合戦)を前にして、徳川家康は東国の物資を関西に送るときに、まず駿府(駿河国の都市)の清水港から津まで海運で輸送し、津から伊賀上野城まで陸路で運ぶという戦略を立てていました。津は最も重要な場所だったといえます。

市長 清水と津の間で船が行き来していたのですね。津の港については、関西と関東地域を結ぶ物流の拠点として、家康公がおそらく開発され

たルートだったと思うのですが、高虎公についても全国各地にそのようなまちづくりの歴史が残っています。あまたある高虎公ゆかりの地をつなぎ交流を深めようと高虎サミットが2年ごとに開催されているわけですが、これまで第6回目の甲良町、第8回目の今治市でも講師として登壇された安部先生は、高虎サミットについてどのようにお感じですか。

安部 まちに多くの人が集まってお祭りのような感じでしたし、どの会場も大変な熱気があって、高虎公に対する親しみと尊敬の気持ちが強く伝わってきました。高虎公の知恵に学んで、地域を活性化したい、起爆剤にしたいという思いが非常に強く感じられましたね。

市長 高虎公は、為政者として非常に目が届いたまちづくり、配慮の行き届いた治世をしておられたと感じます。今の津市に目を移しますと、誕生して10年になる新津市のエリアの中で藤堂藩である津藩、久居藩があって、紀州藩の領地が一部あります。これを落とし込んだ地図を見ると結構入り組んでいることが分かります。

安部 紀州藩がこれだけ入り組んでいるのは不思議ですね。